




# web再録

GRANBLUE FANTASY  
UN OFFICIAL FAN BOOK  
Sandalphon X Lucifer

FOR ADULT ONLY






今日もお呼び頂き  
ありがとうございます

ああ、君なら  
来てくれると  
思ってたね




…ポット  
新しくしたんですか？



ああ  
銅製のものでね

こちらのほうが  
熱が冷めにくいんだ

そ、そうなんですか…



おいしい珈琲を作る為に  
ここまで拘るなんて  
まるで人の職人のようですね



せっかく珈琲に  
興味を持つ事ができて  
これが人間にも  
広まったんだ

見守るだけでなく  
少しでも人のところや  
進化の変遷を理解  
できればと思ったが…


模倣するだけでは  
なかなか理解には  
たどり着かないな

そう、ですか…

珈琲豆もなかなか  
繊細なものでね

少しの温度や蒸らす間隔で  
かなり風味が変わってくる  
ことが最近わかったんだ

このポットも  
口が細くなつて  
いるだろうか？



これはお湯が勢いよく  
入らないようにする為で

こうしてゆっくり少しずつ  
回し入れることによって

豆が満遍なく湯の中を  
泳いで均等に蒸らされる

こうすることで酸味の出ない  
まろやかな風味になるんだ

最近：ルシフェル様を  
前にすると鼓動が  
高鳴るのはなんなんだ…

ルシフェル様から  
何らかの力が  
発せられていて

それを間近で  
浴びている  
せいなのか……？

しかしもしそうなら  
他の天司にも  
何らかの影響が  
出るはず……

特にそういった報告は  
上がっていないし  
俺だけ何故……？

サンダルフォン？

！

珈琲  
できたよ

ありがとうございます  
ございます

君の好みに  
仕上がっていると  
いいんだが

頂きます……

！





どうかな？

分かるか？  
豆は前淹れた時の  
ものと同じなんだが



前と味が違う…？

はい、後味がスツキリ  
してるといいですか…  
こっちの方が  
美味しく感じます



そうか

違いが分かって  
くれてよかった…  
研究したかいがあったよ





ダメだ…

今、ルシフェル様のそばにいてはいけないような…

どくんと



…サンダルフォン？

…今日はいつもと様子が違うだろうか？

なにか気になることでもあったのか？

びび



いえ

何でも、

ありません…

あああ

……

…そうか

だが念の為  
今日はもう  
安静にして  
おいた方が良く

何かあったら  
遠慮なく私に  
相談して欲しい

君が気になる事  
興味を持った事は  
私も興味があるし

出来るのなら  
君の力になりたい

ありがとうございます…

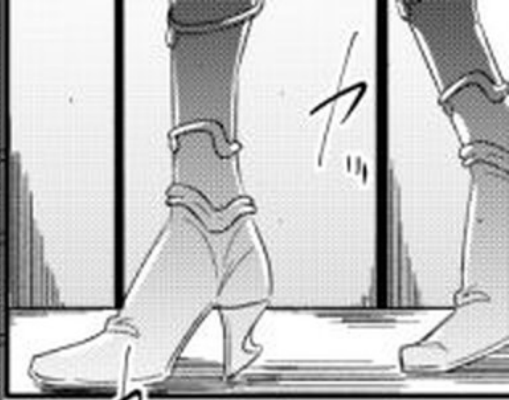
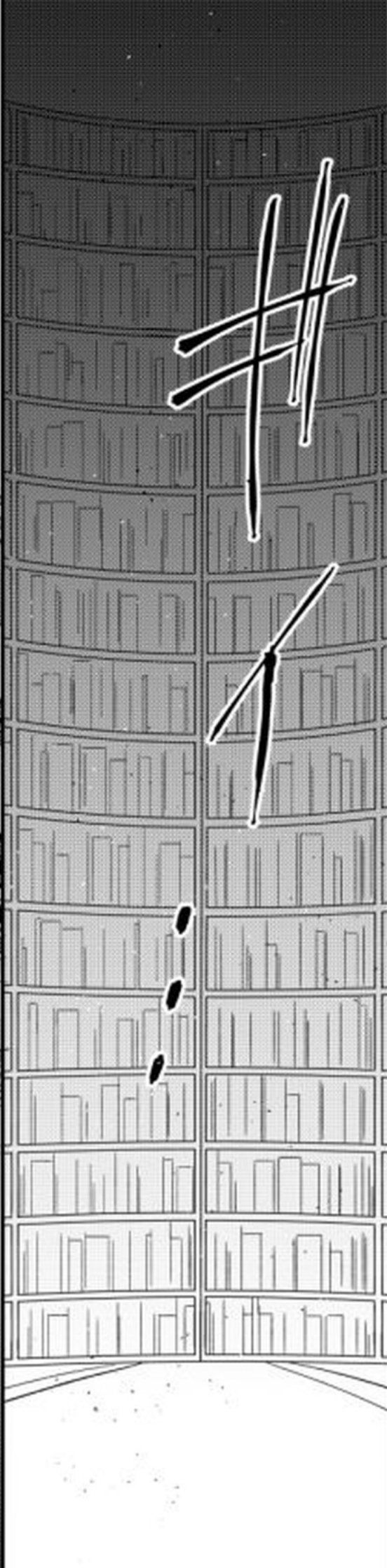
ルシフェル様…

…とは言ったものの

研究の成果や  
空・人々の進化を  
記録した書物が  
蔵された書庫なら



答えは  
見つか  
る  
だ  
ら  
う  
か...



この知り得ぬ  
感情...?

これがルシフェル様に  
害なすものであった  
場合を考えると  
本人に相談する  
わけにもいかない...



人に関わる書物は  
このあたりか…？

…それにしても  
膨大な情報量だ

これらを今まで  
記録し続けて  
いたのか

きっと俺が  
生み出される前から  
ずっと…

10  
パラ…

俺は今も役割の  
ない天司だが

ルシフェル様は  
生まれながらにして  
天司長として周囲より  
そう扱われていたと  
言っていた…

ルシフェル様にとって  
それが当然の事でも  
きっと俺が知り得る  
ことのない苦勞も  
あったんだろう…

他の天司には役割が  
与えられているのに…

どうして俺だけ…

俺も

ルシフェル様の  
役に立ちたい…

よくやったな  
サンダルフォン

私のために  
よくここまで  
頑張ってくれた

…ルシフェル様…

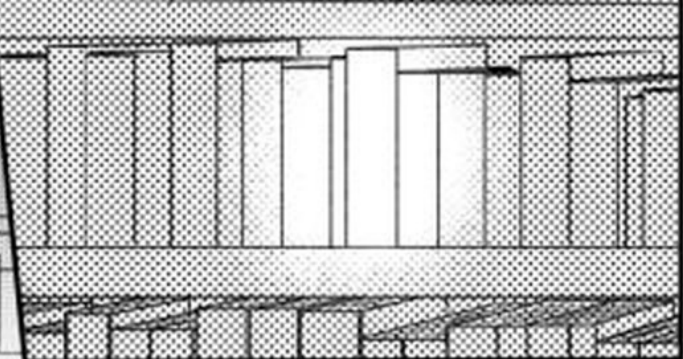
だめだ  
またあの熱が

まあ…

……！



はっ



これは……!



ルシフェル様……



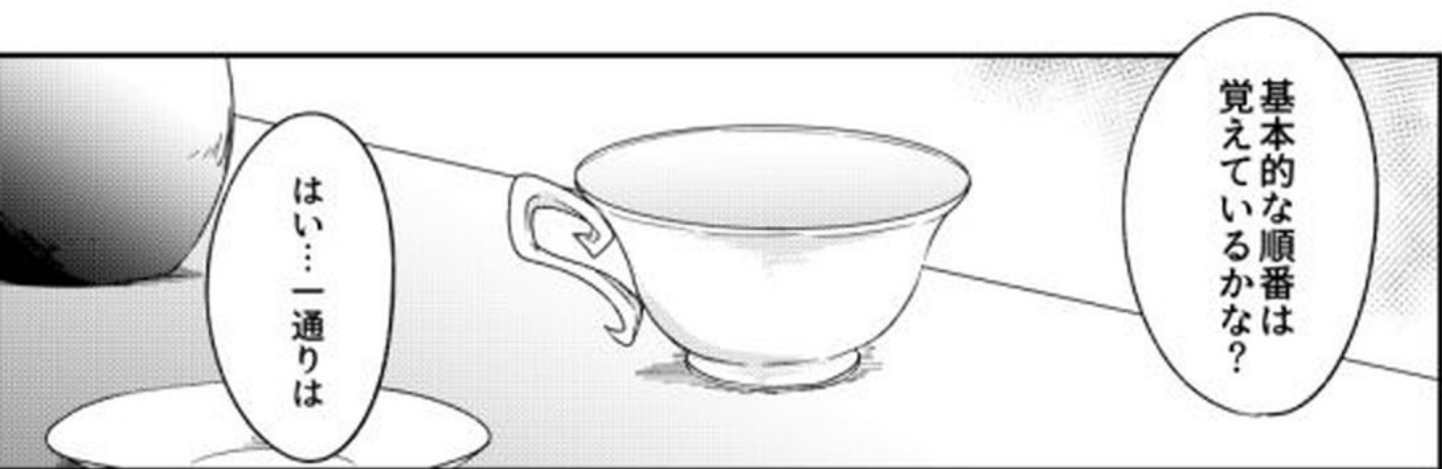
それでは失礼します



はっ

ああ、ありがとうございます  
引き続きよろしく頼む









ルシフェル様が：

どき

どき

俺を一挙一動  
逃さぬように  
見ている……



待て  
サンダルフォン



いや

はい?!

なにか  
おかしかった  
ですか?!

先日私が  
淹れた珈琲を  
美味しいと  
言ってくれた  
ものだから



どき

あ

せっかくだから  
その時の通りの  
淹れ方をした方が  
良いと思ってるな

はあ……

まずい……  
何も覚えて  
いない……

いいか  
この間の珈琲の  
味の出し方だが……

ルツ……  
ルシフェル様?!

?!

ルシフェル様の手が  
俺の手と重なって……?!

ルシフェル様  
その…近い…

?

私は君が  
美味しいと思った  
珈琲を淹れてもらいたい

だから私が先日  
淹れた時と  
同じ要領で  
行ってほしいんだ

…駄目だろうか？

熱い

い

いえ

お気遣い痛み入ります…

ありがとう  
では続けるよ

後ろから  
ルシフェル様の  
温もりが

熱い



む、  
……確かに身体中に  
熱が籠もっているな

何かコアに問題が…

…!

は……

……



…ルシフェル様……俺…



はあ…



…サンダルフォン？



…接吻とは

主に互いの愛情を  
確かめ合う時に  
行われる行為と  
される…



サンダルフォン  
君も人間の進化に  
興味が湧いたのか？

へ



これは……その

……なんだ？

落ち着いて……  
言ってみなさい

ちっ……

違うんです！



人には  
三大欲求という  
ものがありますが

これは我々天司にも  
備わっているもの  
なのでしょいか？

っ……

あの

先日書庫で人間の  
進化に関する書物を  
読んでいて……



備わっていないとは言  
い切れないだろう

私達はもとより  
星の民に造られた  
存在だが

自立機構であるが故  
自らの意思を持って  
行動することができる

それにより  
何らかの欲が発生しても  
おかしくはないだろう

現に私もこうして  
嗜好の一環として  
珈琲を嗜んでいる

それがどうかしたのか？

俺は……  
ルシフェル様を

あいしているのかも  
知れません

……どうやら俺にも  
その「欲求」が  
備わっているようで



サンダルフォン…

君は人間の「愛」を理解したというのか？

書物で学んだつもりです…

近頃貴方という度に胸が締め付けられるような苦しさを患っていました…

それが一体何なのか…俺はこの気持が貴方に害を及ぼすものだったらと思ひ書庫に籠もって一人で調べていました

人間の感情とは多岐にわたり、我ら天司にすら想像つかない情を生み出すと記されていたのですが…

そのなかに「愛」という感情を記す文章が俺の状況に酷似していました

貴方と一緒にいたい…貴方を大切にしたい…ルシフェル様の事を考える度に体の奥から熱がこみ上げてどうしようもなく…

それで…たどり着いた答えが…

ルシフェル様と接吻以上の事を…

見かけないと思ったら書庫にいたのか…

…すみませんこのような浅ましい情を抱いてしまい…



私達では行えないし  
何も生み出すことは  
ないものだ

君の気持ちは  
理解した



だがそれは  
基本は男女間で  
築かれる概念で  
あって私達のような  
男性同士で成り立つ  
ものではない

そういった行為も  
男女が行うことで  
意味を成すものであって



……ッ  
そう、ですよね……

すみません……

……



しかし

君がそこまで  
興味を持つものが  
出来た事を  
私は嬉しく思う

え……



……とはいえ  
私も経験はないし  
教えることは  
叶わないのだが



はあ...

ル...

ルシフェル様っ...

そうだな：  
触れ合う程度であれば  
私でも協力できるだろう

君のしたいように  
してみるといい

君の感情についても  
何か分かるかも  
知れない

言っただろうか？

「君が気になる事  
興味を持ったことは  
私も興味があるし  
出来るのなら  
君の力になりたい」と...



はあ

はあ

はあ

0

しかし  
驚いたな…

ん…



すみません  
つらいですか？

いや…意識が  
少し朦朧として…

これでは  
他の天司たちに  
何かあっては  
感知することが…



ルシフェル様…

急にいなくなった  
かと思えば…

自らこのような  
事を学び  
あまつさえそれを  
私に求めて来よう  
とは…

友の言う通りに  
設計したはいいが  
私には無い何かを  
仕込んでいただろうか…



今この時くらいは  
全てを忘れて…

どうか俺だけを  
見ていてください



は……

ルシフェル様っ…

……サンダルフォン…

しかし…

ん…っ

サンダルフォンが  
ここまで  
情熱的になるのは

初めて  
見たな…

ルシフェルさま、

はあ、

ふんふん

るしふえるさま…

はあ…

わろ

最初サンダルフォンに  
熱を帯び始めた時も

そういつた症状  
なのだど理解  
することが  
出来なかつた

私には理解  
出来なかつたと  
言うことは

私には「欲」が  
備わっていないのか…？



サンダルフォン？  
何を…

何を…

何を？

シて、いいんですよ？

男性同士では

ココを使うのが  
常らしいですよ  
ルシフェル様

どこを  
触って…

サンダルフォン

30  
171  
;

ま

待て

サンダルフォン……!

そのような  
事が記された文献  
あったのか……?!

何も生まなくとも  
同性でこころを  
通わせる一環として  
存在する行為です……っ

そうでは  
無くっ……

……ルシフェル様

もしかして

恥ずかしいんですか?

アル……

……っ

恥ずかしい?

ルシフェル様が  
恥ずかしがっている  
ところ……初めて  
見ました

これが  
「恥ずかしい」  
という事なのか……?

何故私は  
サンダルフォンに  
対して恥ずかしいという  
感情を抱いている……?

ルシフェル様……  
かわいい

ニヤ







ルシフェルさまっ…  
はいつて…

んっ…く…

あっ…

ああ…っ  
わかってる…

ん、あ



…ルシフェルさま  
気持ちいいですか…？

っ…少し、  
苦しいが…  
だいじょうぶだ

君はどうだ…

圧迫感が  
凄まじいな…



ルシフェル様の中…

柔らかくて

暖かくて

すこく、

気持ちいいです…

今…  
俺たち一つに  
なってるんですね…

しかし…  
何故だろう

今まで言葉に  
表すことの  
出来なかった情が

あ…あ…

っ…そう、だね…

こうしていると

とても、

満たされて  
安心できるような…

胸の奥底から  
溢れ出るような…

はあ…

はあ…

…ははっ  
ルシフェル様…

なんて顔  
してるんですか…

……え……

……そんなにい  
やらしい  
顔して……

感じてくれてるんですか？

感じて……？

ほら

俺と繋がって  
色んなところ  
触れられて

こんな風に

あっ……

気持ちいい  
ですか……？

腰の奥から電流が  
流れるような  
もどかしい感覚……

これが

……



サンダルフォン……

きもちいい……から、  
……もっと、奥まで……



っあ……!

ルシフェル様も

そのように  
煽ったり  
するのですね

はっ

はあ……

はっ  
はっ  
はっ

30  
1/1

ん  
っ





…ルシフェル様は  
どうして  
そこまで珈琲を  
おいしくするのに  
拘るんです？

人間の感情とは  
多岐にわたり、  
我ら天司にすら  
想像つかない情を  
生み出すという

ああ…せっかく  
色んな種類の豆が  
あるからね

それぞれの豆に  
適した淹れ方を  
編み出して君を  
驚かせたり  
喜ばせたり  
したいと…

え？

ただそれは  
生を得た天司  
にも言えて

えっ

貴方は貴方が  
思っている以上に  
感情が豊かで

あ……

ふとした時に  
見せる表情の変化に  
「かわいい」と  
思ってしまった

ルシフェル様  
それって…

少しでも  
お役に立てるのなら  
俺はあなたに  
必要とされたい

…すまないが今のは  
聞かなかった事に…

そんな事できる  
ワケ無いじゃない  
ですか！

ただ  
それよりも

あれって全て  
俺の為だったと  
思っているんですか…！

「愛しい」と  
思うのは  
いけないこと  
でしょうか

…穴があったら  
入りたいとは  
まさにこの事か…